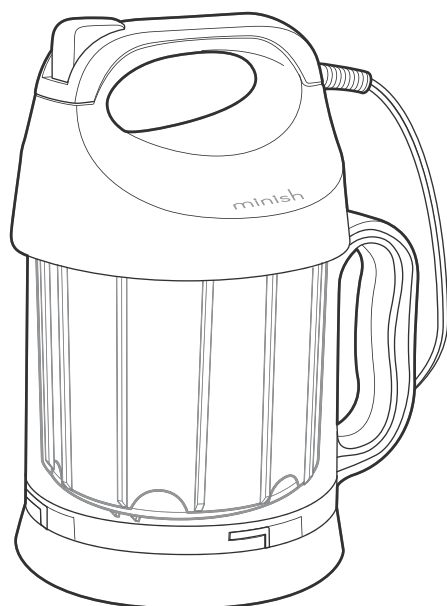


minish

クルクルベジスライサー DBS-14

取扱説明書・保証書



このたびは、当社製品をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。正しくご使用いただくために必ずこの取扱説明書をよくお読みください。なお、お読みになられたあと、もいつでも見られるように大切に保存してください。

も く じ

安全上のご注意	P. 2～3
各部の名称とはたらき	P. 4
正しい使いかた	P. 5～8
お手入れと保存	P. 9
修理・サービスを依頼する前に	P.10
アフターサービスについて	裏表紙
保証書	裏表紙



仕 様

型 名	DBS-14
電 源	AC100V 50/60 Hz
消費電力	25W
定格時間	2分
外形寸法	約 幅 160 × 奥行 123 × 高さ 195mm
質 量	約 720 g
電源コード長さ	約 1.3 m
付属品	レシピ×1、取扱説明書・保証書 ×1



- 仕様等は改善・改良のため、予告なく変更することがあります。
- この製品を使用できるのは日本国内のみで、海外では使用できません。
(This unit can not be used in foreign countries as designed for Japan only.)

安全上のご注意








- ご使用になる前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
- ここに示した注意事項は安全に関する重大な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- お読みになったあとは、お使いになる方がいつでも見られるところに、必ず保存してください。

 警告	誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示します。
 注意	誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性および物的損害の発生が想定される内容を示します。 (物的損害とは、家屋・家財・家畜・ペット等にかかわる拡大損害を示します。)





図記号の意味と例

	⊘は、「してはいけないこと」を意味しています。具体的な禁止内容は、⊘の中や近くに絵や文章で示しています。(左図の場合は、「分解禁止」を示します。)
	●は「必ずすること」を意味しています。具体的な強制内容は、●の中や近くに絵や文章で示しています。(左図の場合は、「電源プラグをコンセントから抜くこと」を示します。)

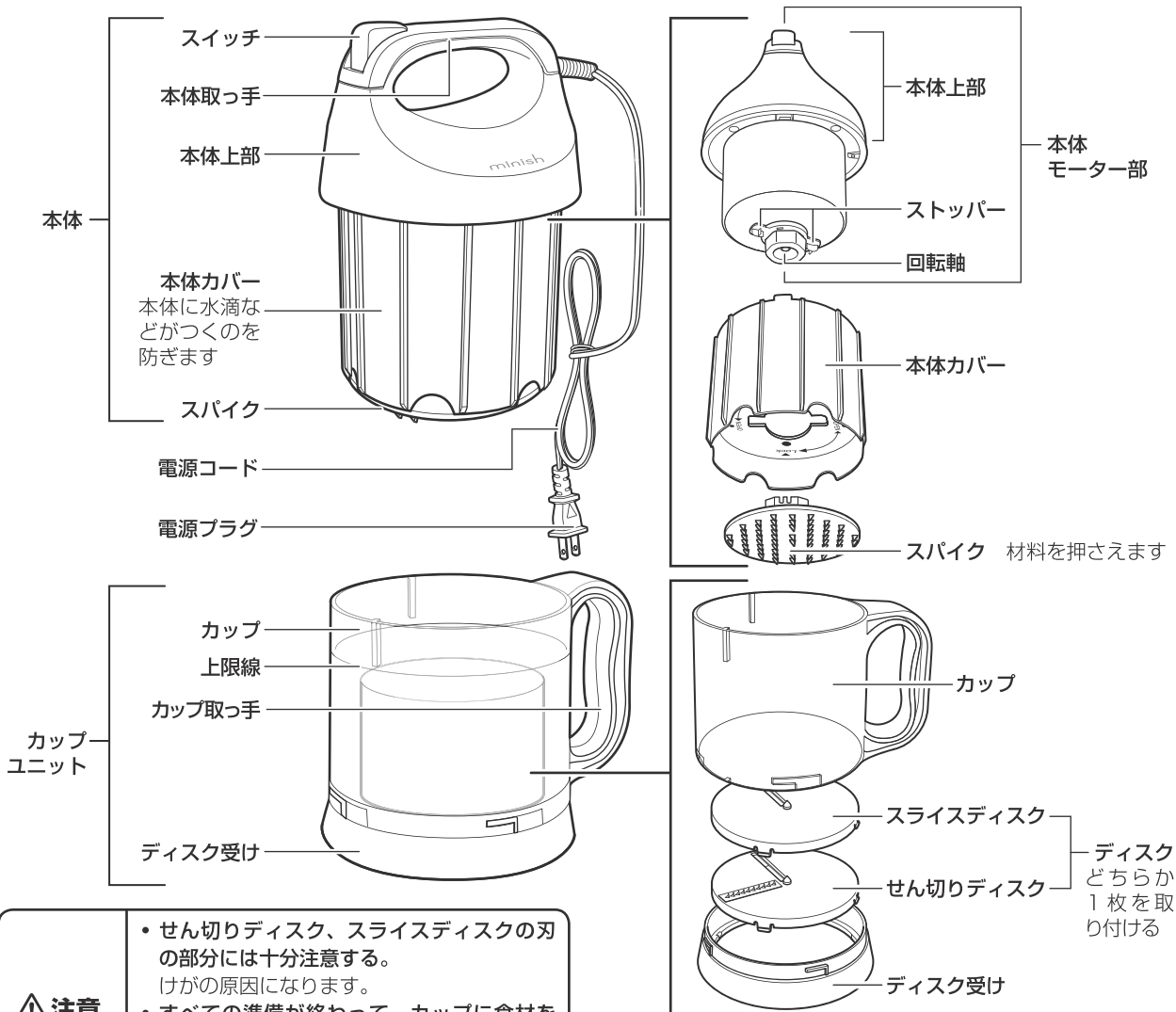
警告

 禁止	交流 100 V 以外では使用しない。 感電や火災の原因になります。	 指示	配線器具の定格を超える使いかた、複数の配線を接続したタコ足配線で使用しない。 コンセント部が異常発熱して発火するおそれがあります。
	電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、束ねたり、重いものを乗せたり、挟み込んだりしない。 感電や発熱・火災の原因になります。	 指示	電源プラグの刃および刃の取り付け面にホコリが付着しているときはふきとる。 ホコリが付着したまま電源プラグを差し込むと、ショート・火災の原因になります。
	電源コードや電源プラグが傷んだり、コンセントの差し込みがゆるいときは使用しない。 感電・ショート・発火の原因になります。	 プラグを抜く	使用後は電源プラグをコンセントから抜く。 火災や故障の原因になります。
	子供だけで使わせたり、幼児の手の届くところでは使用しない。 けが・やけど・感電の原因になります。	 プラグを抜く	お手入れのときは、安全のため電源プラグをコンセントから抜く。 感電・火災・けがの原因になることがあります。
	本体のすき間にピンや針金などの金属物等、異物を入れない。 感電・けがの原因になります。	 分解禁止	分解しない。また、修理技術者以外の人は修理しない。 感電・火災・けがの原因になります。修理は販売店またはお客様相談室(裏表紙参照)にご相談ください。
 使用禁止	異常時(こげ臭い、発煙など)は電源プラグを抜き、使用を停止する。 感電・火災の原因になります。	 ぬれ手禁止	ぬれた手で、電源プラグを抜き差ししない。 感電の原因になります。
	不安定なところでは使用はしない。 けが・やけど・故障の原因になります。	 水ぬれ禁止	本体上部を水につけたり、水をかけたりしてぬらさない。 水洗いしない。 感電・ショートの原因になります。
 指示	電源プラグはコンセントの奥までしっかり差し込む。 また、電源プラグの抜き差しで運転の開始・停止を行わない。 感電・ショート・発火の原因になります。		

⚠ 注意

 接触禁止	スライスディスク、せん切りディスクの刃には直接触れない。 けがの原因となります。		食材以外をカップユニットに入れない。 けが・故障の原因となります。
	一度の運転を2分を超えておこなわない。 モーターの痛み、故障の原因となります。	 禁止	業務用に使用しない。調理目的以外の使いかたはしない。 家庭用として設計されているため、業務用としては使用しない。
	直射日光が当たる場所、火や熱源の近くでは使用しない。 変形、故障の原因になります。		お手入れのときは住宅用洗剤・シンナー・ベンジン・アルコール・磨き粉などを使わない。 変色・変形・感電・故障の原因になります。
	変形や破損のあるときは、使用しない。 感電や火災、やけどの原因になります。		電源プラグを抜くときは電源コードを持たずに必ず電源プラグをもって引き抜く。 感電やショートの原因になることがあります。
 禁止	電源コードが引っ張られた状態で使用しない。 断線などをおこし、火災や感電、やけどの原因になります。	 指示	カップユニット・本体とも必ず取っ手を使って持ち運ぶ。 取っ手を使うと、安全に安定して持ち運ぶことができます。
	電源コードを束ねたまま使用しない。 火災の原因になります。		本機で生野菜のスライス以外を行わない。 故障の原因になります。
	カップユニットに調理前・調理後の食材を入れたままにしない。 食材を長い時間放置すると、成分の腐敗や変質の原因になります。		

各部の名称とはたらき



⚠ 注意

- せん切りディスク、スライスディスクの刃の部分には十分注意する。けがの原因になります。
- すべての準備が終わって、カップに食材を入れ、本体をカップに入れるときまで、電源プラグをコンセントに接続しない。事故、けが、故障の原因になります。

ディスク

スライスディスク

せん切りディスク

調理例

スライスディスクは、幅の広い状態で調理されます。

せん切りディスクは、スライスディスクと同じ刃とさらに細くする刃があります。

※イラストはイメージで、入れる食材や大きさなどによって状態は異なります。

正しい使いかた

※お買い上げ後、初めて使用するときは、カップ・本体カバー・スパイク・ディスク（2種類）・ディスク受けを十分に洗ってから使用してください。（9ページの「お手入れと保存」に従って行ってください。）

使用前の準備

⚠注意

- 本体を移動させるときは、必ず取っ手を持つ。
- 子供だけで使わせたり、幼児の手の届くところで使用しない。
- カップに本体を取り付けるまでは電源プラグをコンセントに差し込まない。
- せん切りディスク、スライスディスクの刃の部分には十分注意する。

1. 調理に合わせて使用するディスクを選択し、ディスク受けに取り付ける調理内容

ディスク種類	調理内容
スライスディスク	薄く幅広く切り出す
せん切りディスク	せん切り（細長く刻む）

交換のしかた

- ① カップ取っ手を持ち、カップユニットからディスク受けを（カップに対して）右に回すと、ディスク受けを取りはずすことができます。
- ② ディスク受けの下からディスクを押し上げると、ディスクをはずすことができます。

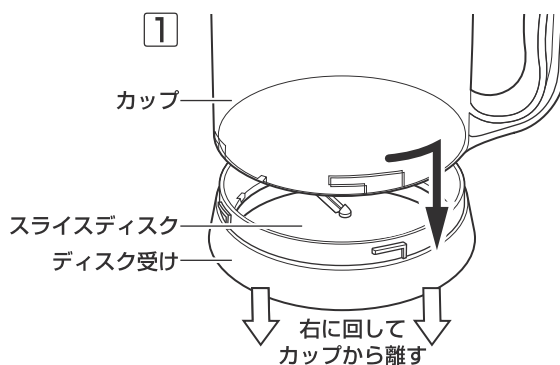
⚠注意

せん切りディスク、スライスディスクの刃には十分注意する。
けがの原因になります。

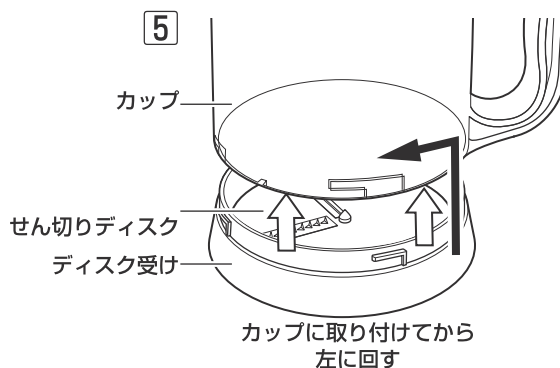
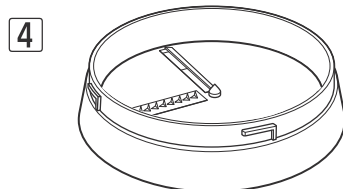
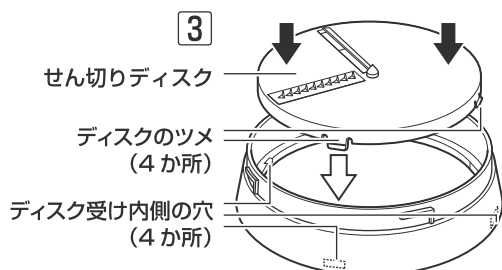
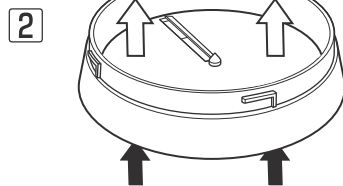
- ③ 使用するディスクを変更し、ディスク受けに4つある穴と、ディスクにある4つのツメを合わせて取り付けます（取り付けられるとツメごとにパチンと音がします）。
- ④ ディスクを変更したら、ディスクのみに触れてみて、取り付けが十分であることを確認してください。
- ⑤ 確認したらディスク受けをカップに①と逆の手順で取り付けてください。

⚠注意

各種取り付け・取りはずしするときには、指をはさんだりしないように十分注意する。
けがの原因になります。



《ディスク変更の例》
スライス→せん切り

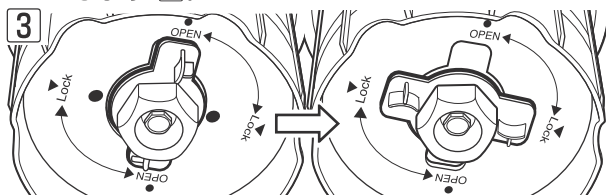


正しい使いかた (つづき)

2. 本体上部に本体カバーを取り付ける

本体モーター部のストッパーを●OPENにして、本体カバーを取り付けます①。

- 本体カバーの上側にある4つの凸部を、本体側にある凹みに合わせます②。
- 本体のストッパーを▼LOCKに回して固定します③。



[●OPEN]にあるストッパーを[▼LOCK]に回して固定する

3. 回転軸にスパイクを取り付ける

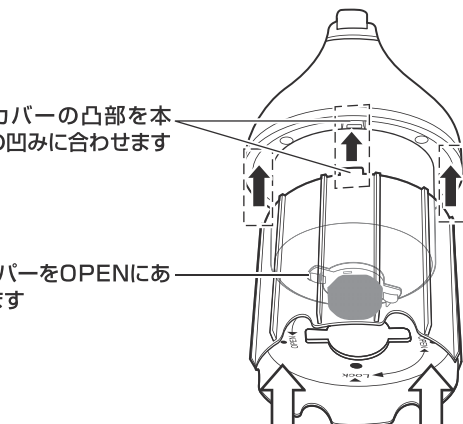
ストッパーが▼LOCKになっていることを確認して、本体の回転軸にスパイクをしっかりと取り付けます④。

2

本体カバーの凸部を本体側の凹みに合わせます

1

ストッパーをOPENにあわせませす

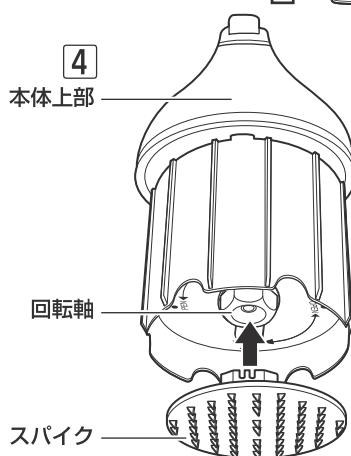


4

本体上部

回転軸

スパイク



基本的な使いかた

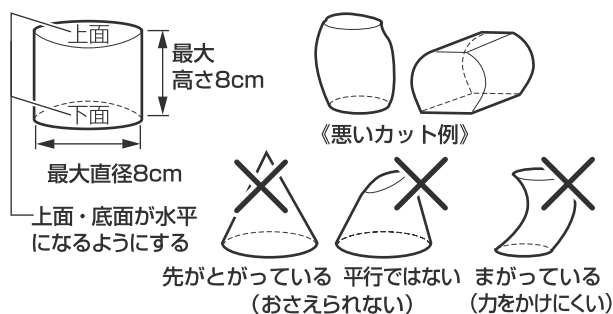
1. 野菜を準備する

野菜の上側と底側を右図のように、上面と底面が水平になるよう、高さ8cm以下にカットします。

- 野菜の上面・底面が水平にカットできないとうまくスライスできません。
- カットした野菜の高さが8cmを超えると本体を取り付けることができません。
- 高さ8cm以下でも、まがった野菜や先がとがった野菜では本体をうまくおさえることができません。

《最大サイズ》

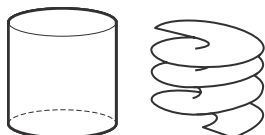
《良いカット例》



野菜をつなげたままスライスする

《良いカット例》の図を参照してカットする

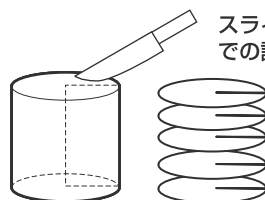
スライスディスク
での調理イメージ



野菜をつなげずにスライスする

《良いカット例》の図を見てカットした野菜を下図のように縦に半分切り込みを入れる

スライスディスク
での調理イメージ



使用できる食材・使用できない食材

※ 本機は生野菜専用です。肉・魚には使用できません。果物も種がディスクの刃を傷めるため、使用できません。

※ 新鮮な野菜を使用してください。長時間放置されてしなびた野菜や、質の悪い野菜はうまくスライス、千切りできません。

使用できる野菜	使用できない野菜
<p>■ 形が固形を保っている野菜 例) 大根・人参・きゅうり・かぶ・山いも・さつまいも・じゃがいも・玉ねぎ など</p>	<p>■ やわらかすぎる野菜 例) トマト・ピーマン・里いも など</p> <p>■ 葉もの野菜 例) キャベツ・レタス など</p>

2. 調理に合わせて食材を適切な大きさにして、カップユニットに入れる

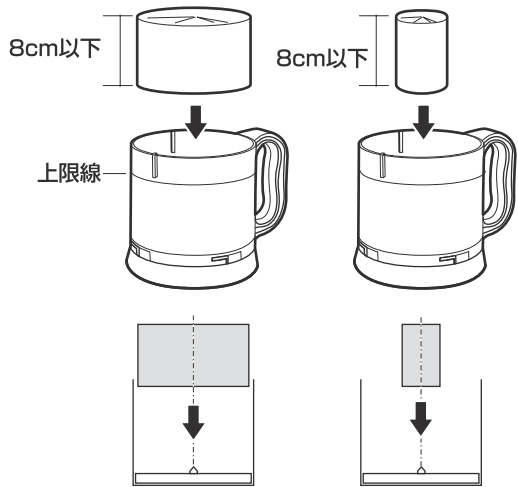
カップユニットの下から約8cmのところにある線《上限線》を超えないように、食材を入れてください。

本機は野菜専用ですので野菜以外は入れないでください。

食材の入れかたのコツ

・食材の中心をディスクの中心にある突起にさしこむように入れる。

※ 突起にしっかりとさしこまないとスライス、千切りはできません。



大きな太い材料でも、小さな細い材料でもディスクの中央の突起に合わせて入れる



注意 食材を入れるときは、必ず高さ8cm以下に切る。食材の量が多すぎると、食材をスパイクが押さえきれず、飛び出すなど事故の原因になります。

3. カップユニットに本体をのせ、食材に対して水平に本体取っ手から力かける

食材を入れたカップユニットにスパイクまで取り付けた本体をのせます。スパイクが食材をさして、押さえるように、食材に対して水平に本体取っ手から力かけます。

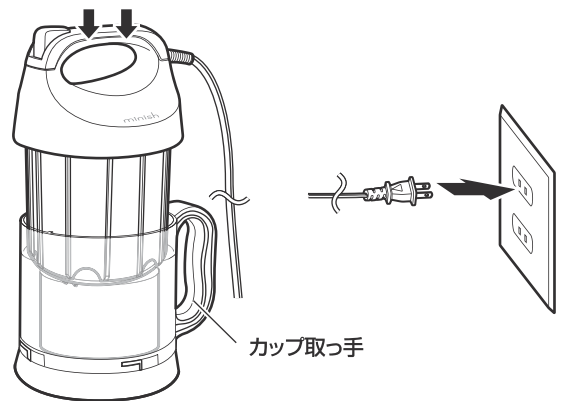
※ 確実にスパイクで食材を押さえないと、カップユニット内の食材が空転してしまいます。

4. 電源プラグをコンセントに接続する



警告

- ・電源コードを束ねたまま使用しない。電源コードの発熱、発火の原因となります。
- ・ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。感電の原因となります。
- ・本体をカップユニットに入れるまで電源プラグを接続しない。けが・事故の原因となります。



正しい使いかた（つづき）

5. カップ取っ手を持って持ち上げ、調理物を受けるもの（皿やボウルなど）の上に移動させる



注意 電源コードに余裕のある場所で使用する。電源コードが引っ張られた状態では、調理中にはずれることがあります。安全に使うために、電源コードの長さに注意してください。

6. スイッチを押して調理開始する

片手でカップユニットを持ち、もう片方の手で本体の取っ手を持ってスイッチを押します。

連続使用は2分以内にし、1分以上休ませてから続けてご使用ください。

- スイッチを押している間だけ電源が入り、食材を回転させます。
- 連続調理は2分以内にしてください。
- カップユニットに入れた食材のかたさにあわせて本体に力を入れるのを加減します。



注意 回転中に本体をカップユニットから出さない。回転したスパイクに触れてけがをされるおそれがあります。

- 本体取っ手・カップ取っ手の持ち方を右図を参照しながら、力をかけやすいようにお持ちください。

※製品の設計上、食材は1cm程度残ります。

7. 食材を追加するときは、スイッチを はなし、電源コードをとりはずす

回転が止まったことを確認してから、「基本的な使いかた」（→6ページ）手順1からくりかえしてください。



注意 回転中に本体をカップユニットから出さない。回転したスパイクに触れてけがをされるおそれがあります。



警告 調理したものを取り出すときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。

8. 調理を終えるときは、スイッチを はなし、電源コードをとりはずす

回転が止まったことを確認してから、本体をカップユニットから取り出します。カップユニット内部に残った食材を取り出します。



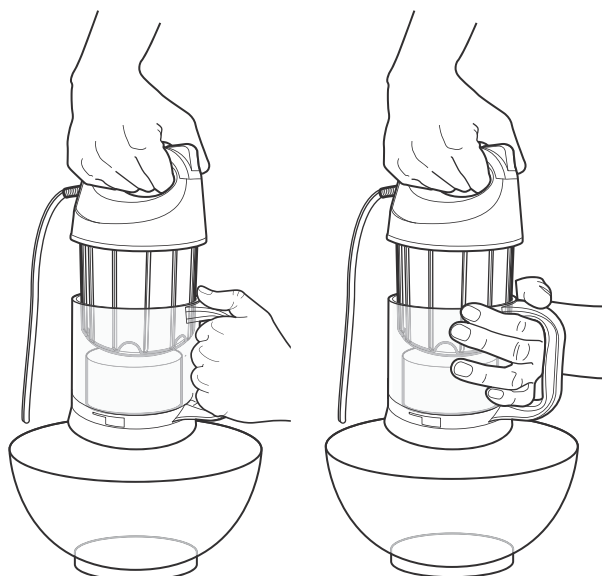
警告 調理したものを取り出すときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。



ボールなどの上でスイッチを押している間だけ電源が入り、食材を回転させる

カップユニットの持ちかた

力をかけやすいようにお持ちください



お手入れと保存



警告 お手入れのときは、必ず電源プラグをコンセントから抜き、回転が止まったことを確認する。感電やけが、事故の原因になります。

お願い

- ・住宅用洗剤やシンナー、ベンジン、アルコール、磨き粉、金属たわしなどは絶対に使わないでください。

お手入れのしかた

本体モーター部以外はすべて丸洗いできます

- ・お手持ちのスポンジやブラシなどを使って、十分に洗ってください。
- ・食器洗い機・食器乾燥機は使わないでください。
- ・ディスクの刃の扱いには十分気をつけてください。
- ・使用後はすぐにお手入れをしてください。材料の色素が付着したり、汚れが乾いてしまうと、固まって取れにくくなります。

本体モーター部には水がかからないようにしてください

- ・ぬるま湯か食器用洗剤に浸してかたくしぼった柔らかい布でふきとり、さらに乾いた布でやさしくからぶきをしてください。
- ・強くこすらないでください。傷がつくおそれがあります。
- ・樹脂部は色素の強い食材によって着色汚れをすることがあります。完全にとれないことがあります。が使用上問題ありません。
- ・電源コード付近を水にぬらさないでください。感電・ショートの原因になります。

スライスディスク・せん切りディスク

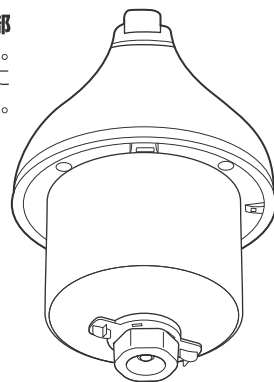
- ・ディスクの刃は、お手持ちのブラシなどを使用してお手入れします。

保存のしかた

- ・お手入れのあと、完全に乾燥させてください。
- ・ポリ袋などをかぶせ、お買い上げの商品が入っていた箱に入れて、湿気のない場所に保存してください。
- ・特にディスクの刃の部分（刃や裏側のネジなど）に水分が残っていると、サビが発生するおそれがありますので完全に乾燥させてから保存してください。
- ・ディスクを保存するときはお子様の手の届かない場所で保存してください。

本体モーター部

水洗いできません。
水がかからないように
してください。



注意

- ・本体上部に水がかからないように注意する。故障の原因となります。
- ・ディスクの刃には直接触れない。扱いには十分注意する。直接触れると、けがの原因になります。また固いものにぶつかけたりすると、切れにくくなり、調理に影響します。

修理・サービスを依頼する前に

⚠ 警告 修理技術者以外の人は分解したり修理をしない。

「故障かな？」と思ったときには次の点をお調べください。

症状	主な原因	処置
動作について		
突然止まる	・食材の大きさが大きい	直径8cm×高さ8cm以下にカットする
	・かたい食材を使用した	調理を中止し、かたい食材を取り除く
	・タネなど固いものが食材の中にあつた	タネなどあることが想定される食材はカップに入れない
	・本体をカップに対して強く押し込みすぎている	押し込む強さを加減して、押し込みを弱くする、時間をかけて調理する
空転する	・本体をカップに対して押し込んでいない	本体を押し力を加える
	・上の食材と下の食材の間にすきまができた	食材の入れかたをかえる
	・やわらかい食材を使用した	「使用できる食材・使用できない食材」(→7ページ)を確認し、適切な食材を選択する
でき上がりの厚さなど違いがある	・ディスク受けとディスクが確実に取り付けられていない	ディスクの4つのツメをディスク受けに確実に取り付ける
	・カップユニットに入れた野菜が水平でない	「使用前の準備」(5ページ)を参照し、野菜を適切な形にカットする
動作音がうるさい	・本体カバーが確実に取り付けられていない	確実に取り付け、ストッパーをロックする
	・ディスク受けとディスクが確実に取り付けられていない	ディスクの4つのツメをディスク受けに確実に取り付ける
一般		
電源が入らない	・電源プラグがコンセントに差し込まれていない、または完全に差し込まれていない	電源プラグをコンセントに確実に差し込む
	・長時間連続で使い続けている	安全装置がはたらいているため、電源プラグをコンセントからはずし、ポットから本体を離し、30分以上おいてから使用してみる
	・電源スイッチを垂直に押ししていない	電源スイッチは垂直に押す
本体カバーがはずれる	・ストッパーがロックされていない	ストッパーを確実にロックする

長年ご使用のクルクルベジスライサーはよく点検を

このような症状はありませんか？

- ・電源コードや電源プラグが異常に熱い。
- ・電源コードを動かすと、通電したり、しなかったりする。
- ・こげ臭い匂いがする。
- ・その他の異常・故障がある。

このような症状の時は、事故防止のため、すぐに電源を切り、コンセントから電源プラグを抜いて、必ず販売店またはドウシャサービスセンターに点検をご相談ください。